

教育事例⑱

イメージをつかむ シミュレーション教材の開発

～実践レベルでつながる動画教材で
実習により効果が～

周手術期看護の シミュレーション教材

教材開発のきっかけ

手術を受けた患者を看護する実習中、学生は見学にとどまり、看護実践は難しい状況がみられていました。「それは、なぜだろう」と考えたとき、手術直後の患者の状態がうまくイメージできず、怖くて近づけないのではと考え、動画を用いたシミュレーション教材を制作することにしました。



撮影風景

教材の特徴

学生が実習で配属される診療科は様々ですので、周手術期看護という手術直後の患者の一般的な観察と、患者が何か訴えたとき、対応できるための対処方法をテーマに動画を作成しました。また、事前学習を視野に入れ、術後は良好に経過する患者で『上行結腸がんの手術直後の観察』と具体的な設定も行いました。

eラーニングコンテンツを自分たちだけで作るとなるととても難しいと思っていましたが、今回、教育デザイン室の協力を得

られる機会があったため、思い切って教材を作成することができました。



動画教材のワンシーン

学生への効果

実際に昨年と比べると、手術後、学生が患者のそばによく行くようになったと実感しています。患者を観察した際に、教材の通りだったとの言葉にもあった様に、学生にとっては、事前に患者の状態をイメージできたのではないかと思います。



ナレーション録音風景

また、本学で初めて手術直後の観察のロールプレイングを導入したところ、学生はスムーズにその場面に入ることができていました。これは、次に何をすべきかなど、シミュレーション教材に取り入れていたためと考えられ、実習では、振り返りの場となっていたようです。

実習では一歩進んで、「実際患



事前学習がリンクして
実習成果がレベルアップ!

医学部看護学科

福田 里砂 (非常勤講師)

大学院医学系研究科看護学専攻
基盤・実践看護学

山下 奈緒子 助教

者さんからはこんな訴えがあるよ」、「よく病棟ではこういう場面があるよ」などを想定した振り返りやアドバイスができたため、より実習へのステップアップに効果的だったと思います。

学生の反応は?

学生は、「解りやすかった」、「もっと見たかった」と言っていました。基本的には、講義と演習と実習が繋がるべきですが、どうしても、演習は机上の学習に近い部分が出てきます。

このシミュレーション教材での事前学習とロールプレイングが、臨床での実習とリンクし、「同じ事をしているから、じゃあ自分も実践してみよう」との学生の意識に繋がったのではないかと考えます。

これからの取り組み

人間の体の中で起きていることは、本を読んでの学習だけではイメージできず、少し理解が難しいところがあると思います。



クランクアップ

今後は、学生がイメージしづらいものを手伝える、援助できるような教材を作ることができれば、手術を受ける患者の身体面もより理解でき、学生にとってより良い学習環境を与えられるのではないかと思います。

周手術期看護臨地実習事前学習用 eラーニング

～ 動画コンテンツの制作 ～

ポイント1 周手術期の患者の観察と対処法の一連の流れを動画でシミュレート

全身麻酔による手術直後の患者が病室に戻るところからの一連の流れ、およびその中の観察ポイントそれぞれについてピックアップして詳しく解説した映像コンテンツ、あるいはレクチャー形式で要点をまとめた解説コンテンツを含んだ全10シーン、16動画コンテンツと2解説コンテンツを制作し、臨地実習前に事前に観察項目を理解するためのコンテンツとしました。



▲ 看護師2人の会話をテロップでも表示

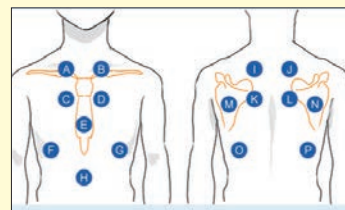


▲ 観察ポイントでは映像を止めて解説を表示

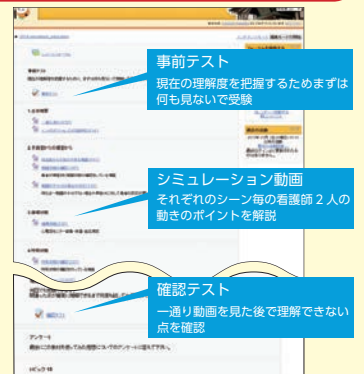
▲ 重要点では周辺事項も含めて解説

ポイント2 事前テストと確認テスト

学習ポイントをより効果的に理解してもらうために、まずはじめに「事前テスト」を1回のみ受検してもらい、既にわかっていること、わからないことを明確にした後、動画を見て理解を確認させます。最後に「確認テスト」を行います。これは何度でもできるようにしています。間違ったところは再度該当のコンテンツを確認できるようにしていますので、臨地研修前に不明な点を何度も繰り返し学習することができます。



▲ 事前テストも確認テストも同じ問題ですが、ランダム出題ですので、単純に答えだけを記憶しても意味がありません。



事前テスト
現在の理解度を把握するためまずは何も見ない受験

シミュレーション動画
それぞれのシーン毎の看護師2人の動きのポイントを解説

確認テスト
一通り動画を見た後で理解できない点を確認